

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-08-0020_改0
提出年月日	2021年6月15日

## 工事計画に係る説明資料

原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備

(原子炉格納容器調気設備 (原子炉格納容器調気系))

(本文)

2021年6月

東北電力株式会社

## 申請範囲

- 7. 原子炉格納施設
  - 7.3 圧力低減設備その他の安全設備
    - (8) 原子炉格納容器調気設備
      - a. 原子炉格納容器調気系
        - ニ 主要弁
        - ホ 主配管

(8) 原子炉格納容器調気設備  
 a. 原子炉格納容器調気系  
 ニ 主要弁

		変更前	変更後	
名称 <sup>*1</sup>		T48-F001 <sup>*2</sup>	変更なし	
種類	—	止め弁		
最高使用圧力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最高使用温度	℃	171 <sup>*3</sup>		
主要寸法	呼び径	— <sup>*4</sup>		600A <sup>*5</sup>
	弁箱厚さ	mm		<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*3</sup>
	弁ふた厚さ	mm		—
材料	弁箱	—		SCPH2
	弁ふた	—		—
駆動方法		—		空気作動
個数		—		1
取付箇所	系統名 (ライン名)	—		<sup>*3</sup> T48-F001 原子炉格納容器調気系
	設置床	—		<sup>*6</sup> 原子炉建屋 O. P. 6. 00m
	溢水防護上の 区画番号	—		—
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—		

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F001」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F002 <sup>*2</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	171 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		600A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		—
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		—
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		<sup>*3</sup> T48-F002 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		<sup>*6</sup> 原子炉建屋 O.P. -8.10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F002」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F003 <sup>*2</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	171 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		600A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		—
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		—
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		<sup>*3</sup> T48-F003 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		<sup>*6</sup> 原子炉建屋 O.P. -8.10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F003」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F010 <sup>*2</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	°C	171 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		50A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
材 料	弁 箱	—		S25C
	弁 ふ た	—		S25C
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		<sup>*3</sup> T48-F010 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		<sup>*6</sup> 原子炉建屋 O.P. -8.10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F010」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F011 <sup>*2</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	171 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		50A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm	<input type="text"/> <sup>*3</sup>	<input type="text"/>
	弁 ふ た 厚 さ	mm	<input type="text"/> <sup>*3</sup>	<input type="text"/>
材 料	弁 箱	—	S25C	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C	
駆 動 方 法		—	空気作動	電気作動
個 数		—	1	変更なし
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F011 <sup>*3</sup> 原子炉格納容器調気系	変更なし
	設 置 床	—	原子炉建屋 <sup>*6</sup> O.P. -8.10m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F011」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F012 <sup>*2</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	171 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		50A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
材 料	弁 箱	—		S25C
	弁 ふ た	—		S25C
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		<sup>*3</sup> T48-F012 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		<sup>*6</sup> 原子炉建屋 O.P. -8.10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F012」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。



		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F016 <sup>*2</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	°C	171 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		450A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<input type="text"/> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		—
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		—
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		<sup>*3</sup> T48-F016 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		<sup>*6</sup> 原子炉建屋 O. P. 6. 00m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F016」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「450」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変更前	変更後
名称 <sup>*1</sup>		T48-F019 <sup>*2</sup>	T48-F019 <sup>*3</sup>
種類	—	止め弁	変更なし
最高使用圧力	kPa	427 <sup>*4</sup>	変更なし 854 <sup>*5</sup>
最高使用温度	℃	171 <sup>*4</sup>	変更なし 200 <sup>*5</sup>
主要寸法	呼び径	— <sup>*6</sup>	600A <sup>*7</sup>
	弁箱厚さ	mm	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*4</sup>
	弁ふた厚さ	mm	—
材料	弁箱	—	SCPH2
	弁ふた	—	—
駆動方法		—	空気作動
個数		—	1
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	T48-F019 <sup>*4</sup> 原子炉格納容器調気系
	設置床	—	原子炉建屋 <sup>*8</sup> O.P. 15.00m
	溢水防護上の 区画番号	—	—
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—	床上 2.66m 以上

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F019」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系、耐圧強化ベント系）並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：重大事故等時における使用時の値。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F020 <sup>*2</sup>	T48-F020 <sup>*3</sup>	
種 類	—	止め弁	変更なし	
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*4</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	171 <sup>*4</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*5</sup>		300A <sup>*6</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*4</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		—
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		—
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		T48-F020 <sup>*4</sup> 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		原子炉建屋 <sup>*7</sup> O. P. 22. 50m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F020」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F021 <sup>*2</sup>	T48-F021 <sup>*3</sup>	
種 類	—	止め弁	変更なし	
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*4</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	171 <sup>*4</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*5</sup>		600A <sup>*6</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*4</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		—
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		—
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		T48-F021 <sup>*4</sup> 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		原子炉建屋 <sup>*7</sup> O. P. 15. 00m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F021」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変更前	変更後
名称 <sup>*1</sup>		T48-F022 <sup>*2</sup>	T48-F022 <sup>*3</sup>
種類	—	止め弁	変更なし
最高使用圧力	kPa	427 <sup>*4</sup>	変更なし 854 <sup>*5</sup>
最高使用温度	℃	171 <sup>*4</sup>	変更なし 200 <sup>*5</sup>
主要寸法	呼び径	— <sup>*6</sup>	600A <sup>*7</sup>
	弁箱厚さ	mm	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*4</sup>
	弁ふた厚さ	mm	—
材料	弁箱	—	SCPH2
	弁ふた	—	—
駆動方法		—	空気作動
個数		—	1
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	T48-F022 原子炉格納容器調気系 <sup>*4</sup>
	設置床	—	原子炉建屋 O.P. -8.10m <sup>*8</sup>
	溢水防護上の 区画番号	—	—
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—	床上 6.40m 以上
			R-B3F-10

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
- \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F022」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*3 : 原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系、耐圧強化ベント系）並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。
- \*4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*5 : 重大事故等時における使用時の値。
- \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
- \*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F004A, B <sup>*2</sup>	— <sup>*7</sup>	
種 類	—	逆止め弁		
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	°C	104 <sup>*3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>		600A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm		<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*3</sup>
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		SCPH2
駆 動 方 法		—		空気作動
個 数		—		2
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		T48-F004A, B <sup>*3</sup> 原子炉格納容器調気系
	設 置 床	—		原子炉建屋 <sup>*6</sup> O. P. -8. 10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F004A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7 : 記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後
名 称 <sup>*1</sup>		T48-F005A, B <sup>*2</sup>	
種 類	—	止め弁	
最 高 使 用 圧 力	kPa	427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C	104 <sup>*3</sup>	
主 要 寸 法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	600A <sup>*5</sup>
	弁 箱 厚 さ	mm	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm	—
材 料	弁 箱	—	SCPH2
	弁 ふ た	—	—
駆 動 方 法		—	空気作動
個 数		—	2
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F005A, B 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>
	設 置 床	—	原子炉建屋 <sup>*6</sup> O. P. -8. 10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F005A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7 : 記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

ホ 主配管

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
原子炉格納容器調気系 T48-F001 ～ T48-F002出口側合流点	427*4	171	609.6	*5 (9.5)	SM41C	変更なし	427*4	171	609.6	*5 (9.5)	SM41C
			609.6	*5 (9.5)					609.6	*5 (9.5)	
			457.2	*5 (9.5)					457.2	*5 (9.5)	
			609.6	*5 (9.5)					609.6	*5 (9.5)	
			609.6	*5 (9.5)					609.6	*5 (9.5)	
			609.6	*5 (9.5)					609.6	*5 (9.5)	
原子炉格納容器調気系 T48-F002出口側合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	427*4	171	61.1*7	(6.1)*7	S25C	原子炉格納容器調気系 T48-F002出口側合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	854*9	200*9	61.1*7	(6.1)*7	S25C
			609.6	*5 (9.5)	609.6				*5 (9.5)		
原子炉格納容器調気系 ドライウェル入口配管分岐点 ～ サブプレッションチェンバ	427*4	104	609.6	*5 (9.5)	SM41C	ドライウェル入口配管分岐点 ～ サブプレッションチェンバ	変更なし	104	609.6	*5 (9.5)	SM41C
			609.6	*5 (9.5)	609.6				*5 (9.5)		
			609.6	*5 (9.5)	609.6				*5 (9.5)		
			609.6	*5 (9.5)	609.6				*5 (9.5)		
			609.6	*5 (9.5)	609.6				*5 (9.5)		
原子炉建屋内 ～ サブプレッションチェンバ入口 配管合流点1	427*4	104	609.6	*5 (9.5)	SM41C	変更なし	104	609.6	*5 (9.5)	SM41C	

O 2 ① II R 1

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 (kPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (kPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	
原子炉建屋内 ～ サプレッションチェンバ入口 配管合流点2	*12 427 *4	104	609.6	□ *5 (9.5)	SM41C	原子炉建屋内 ～ サプレッションチェンバ入口 配管合流点2	427	104	609.6	□ (31.0)	SM400C	
							変更なし					
T48-F016 ～ ドライウエル入口配管合流点	*13 427 *4	171	457.2	□ *5 (9.5)	*14 SM400C	変更なし						
			*6 457.2	*6 □ *5 (9.5)	*6, *14 SM400C							
T48-F010 ～ T48-F011入口側合流点	*15 427 *4	171	60.5	(5.5)	STS42	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
			61.1 *7	(6.1) *7	S25C							
			61.1 *7	(6.1) *7	S25C							
			61.1 *7	(6.1) *7	S25C							
			61.1 *7	(6.1) *7	S25C							
*7, *11 61.1	(6.1)	*11 S25C										
T48-F011入口側合流点 ～ T48-F002出口側合流点	—					*8 T48-F011入口側合流点 ～ T48-F002出口側合流点	427 854 *9	171 200 *9	60.5	(5.5)	STS410	
	427 *4	171	60.5	(5.5)	STS42				60.5	(5.5)	STS410	
			*7, *11 61.1	*7, *11 (6.1)	*11 S25C				60.5	(5.5)	STS410	
ドライウエル補給用窒素配管 分岐点 ～ 原子炉建屋内吸入配管合流点	*16 427 *4	171	60.5	(5.5)	STS42	変更なし	変更なし	200 *9	60.5	(5.5)	STS410	
		104	60.5	(5.5)	STS42				*11 60.5	*11 (5.5)	*11 STS410	
			*7, *11 61.1	*7, *11 (6.1)	*11 S25C							

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	
*17 原子炉格納容器配管貫通部 (X-81) ～ ドライウエル出口配管分岐点	427 *4	171	609.6	9.5	SM400C	*18 原子炉格納容器配管貫通部 (X-81) ～ ドライウエル出口配管分岐点	変更なし 854*9	変更なし 200*9	609.6	9.5	SM400C	
			609.6	9.5	SM400C							
			609.6	9.5	SM400C							
			609.6	9.5	SM400C							
			609.6	9.5	SM400C							
*17 ドライウエル出口配管分岐 点 ～ T48-F046	427 *4	171	609.6	9.5	SM400C	変更なし						
*19 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ～ ドライウエル出口配管分岐点	427 *4	104	609.6	9.5	SM41C	*18 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ～ ドライウエル出口配管分岐点	変更なし 854*9	変更なし 200*9	609.6	17.5	SM400C	
			609.6	9.5	SM41C				609.6	17.5	SM400C	
	—			609.6	17.5		SM400C	427 854*9	171 200*9	609.6	17.5	SM400C
	427 *4	171	609.6	9.5	SM41C		変更なし 854*9	変更なし 200*9	609.6	17.5	SM400C	
			609.6	9.5	SM400C							
609.6			9.5	SM400C								
—			609.6	9.5	SM400C	427 854*9	171 200*9	609.6	17.5	STS410		
*21 サブプレッションチェンバ出 口配管分岐点1 ～ T48-F045	427 *4	171	318.5	10.3	SM400C	変更なし						
			318.5	10.3	STS410							
			318.5	10.3	STS410							

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後					
名 称	最高使用圧 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	名 称	最高使用圧 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料
液体窒素貯槽 ～ パーヅ用液体窒素蒸発器	1.87*4 (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP	変更なし*23					
	1.77*4 (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP						
パーヅ用液体窒素蒸発器	1.77*4 (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP	変更なし*23					
			165.2	(7.1)	SUS304TP						
			34.0	(3.4)	SUS304TP						
			216.3	(8.2)	SUS304TP						
パーヅ用液体窒素蒸発器 ～ T48-F016	1.77*4 (MPa)	66	216.3	(8.2)	SUS304TP	変更なし*23					
			89.1	(5.5)	SUS304TP						
			89.1	(5.5)	SUS304TP						
	0.86*4 (MPa)	66	216.3	(8.2)	SUS304TP						
			216.3	(8.2)	STPT370						
			427*4	66	457.2		□*5 (9.5)	SM400C			
			457.2	□*5 (14.3)	SM400C						
液体窒素貯槽出口配管分岐点 ～ 常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)	1.77*4 (MPa)	66	60.5	(5.5)	SUS304TP	変更なし*23					
			34.0	(4.5)	SUS304TP						
常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)	1.77*4 (MPa)	66	80.0	□*5 (6.0)	A6063TE	変更なし*23					
			60.0	□*5 (4.0)	A6063TE						
			31.0	□*5 (3.0)	A6063S						
			31.0	□*5 (3.2)	A6063TE						
常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用) ～ T48-F010	1.77*4 (MPa)	66	34.0	(4.5)	SUS304TP	変更なし*23					
			60.5	(5.5)	SUS304TP						
			60.5	(5.5)	STPL380						
	427*4	66	60.5	(5.5)	STPT370						
			60.5	(5.5)	STPT38						
			21.7	(3.7)	STPT370						
常時補給用液体窒素蒸発器出 口配管分岐点 ～ T48-F030	1.77*4 (MPa)	66	60.5	(5.5)	STPT370	変更なし*23					

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

- 注記\*1 : 外径は公称値を示す。
- \*2 : ( ) 内は公称値を示す。
- \*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋原子炉棟換気空調系からドライウエルまで (ドライウエル入口配管)」と記載。
- \*4 : S I 単位に換算したものである。
- \*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成3年6月19日付け3資庁第1003号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-2-2-1 管の基本板厚計算書」による。
- \*6 : エルボを示す。既工事計画書にはエルボを含めた管仕様を記載しているため、記載の適正化を行う。
- \*7 : 差込継手の差込部内径及び最小厚さ。
- \*8 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (原子炉格納容器フィルタベント系) 並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (可搬型窒素ガス供給系, 原子炉格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置 (原子炉格納容器フィルタベント系) と兼用。
- \*9 : 重大事故等時の使用時の値。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウエル入口配管からサブプレッションチェンバまで (サブプレッションチェンバ入口配管)」と記載。
- \*11 : エルボを示す。
- \*12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋内からサブプレッションチェンバ入口配管まで (原子炉建屋内吸入配管)」と記載。
- \*13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「パージ用液体窒素蒸発器からドライウエル入口配管まで」と記載。
- \*14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41C」と記載
- \*15 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「常時補給用液体窒素蒸発器からドライウエル入口配管まで (ドライウエル補給用窒素配管)」と記載。
- \*16 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウエル補給用窒素配管から原子炉建屋内吸入配管まで」と記載。
- \*17 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウエルから原子炉建屋原子炉棟換気空調系まで (ドライウエル出口配管)」と記載。
- \*18 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (原子炉格納容器フィルタベント系, 耐圧強化ベント系) 並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置 (原子炉格納容器フィルタベント系) と兼用。
- \*19 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバからドライウエル出口配管まで (サブプレッションチェンバ出口配管)」と記載。
- \*20 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*21 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバ出口配管から非常用ガス処理系まで」と記載。
- \*22 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STS42」と記載
- \*23 : 本設備は記載の適正化を行うものであり、手続き対象外である。
- \*24 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPT38」と記載
- \*25 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「液体窒素貯槽出口配管から常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用) まで」と記載。
- \*26 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPL39」と記載